

第 3 回留学報告書

今学期の振り返り

今学期は経済学部 2 年目の専門分野の授業の履修と並行して、昨年私も履修していた Ph. D. の 1 年目のマクロ経済学のティーチングアシスタント (TA) をしていました。今回はこの TA を通じて得られた知見についてレポートしていきます。

教師と学生の狭間にて考えたことー良い教師 (Good Teacher) とはー

この授業の前半のパートはサージェント教授 (2011 年ノーベル賞) が担当されました。TA を経験すると良い意味でも悪い意味でも教授と学生の両方の心境を知ることができます。サージェント教授は学生にリーディングを課していましたが、授業中の様子から学生の何人かはこの課題をこなしていないと感じたそうです。そこで TA の私に宿題の解答の公開を禁じ、さらに抜き打ちテストを行い、リーディングをすることを促進させました。知識は他人から全て教わるのではなく、自分で考え、身につけていかなければならないものだと思うので、学生にリーディングを課していくことは私も理解できました。

一方で、一年目の学生は他にも 3 つの授業があり、大量の宿題をこなさなければならず、授業外でリーディングに確保できる時間は限られています。中にはリーディングの時間が全く確保できない学生もいたはずですが、したがって、彼らが教授に対して、自己完結型の授業をしてほしいと思うのは自然な願望だと思います。ときには、「効率的」に学習させていくことも人によっては効果的なのではないかとこの時期には考えていました。

最初の一月半のサージェント教授が終わった時に、試験の結果を見て教授は満足そうにしていました。確かに平均点は高かったのですが、それは問題の難易度のせいなのか、学生の努力の成果なのか、私はわかりませんでした。したがって学生に自主学習を促すのか、自己完結型の授業を行うスタイルのどちらが良いのかはわかりませんでした。私が受講者ならば、自主学習型のスタイルで全く問題はないのですが、学生によって違いがあるので、一般的にどうすべきなのかはこの時点では結論には至っていませんでした。しかし、後半のひと月半を別の教授のもとで TA を行うことで、私なりの結論を得ることになります。

後半のひと月半はリジューグヴィスト教授が担当されました。彼も学生の質問にはヒントだけを出し自分で考えることも促していました。しかし、前半との違いはこのパートでは TA が宿題の解答を自由に

作成し、TAセッションで解説しても良いことになりました。そこで私はなるべく丁寧にかつ宿題を解くときの勘所を解説していきました。宿題以外にも学生はありとあらゆることを質問してくるので、私の英語の練習にはなっていたのではないかと思います。

しかし、私は期末試験の監督をしているときに答えをすぐに与えてしまう教え方は決して効率的ではないことに気づきました。期末試験は宿題の類題であったにも関わらず、大半の一年目の学生はお手上げ状態だったのです。おそらく、宿題は採点されず、答えも後で手に入るため、彼らの多くは自分で問題に取り組んで試行錯誤をするのを放棄してしまったのでしょう。したがって、宿題が採点されないことと解答が公開されることによって、学生の勉強をするインセンティブを削いでしまったのだと思います。私は一年目の学生が自主的にもっと取り組んでくれることを期待していたのですが、もっとこのインセンティブを宿題の解答を作るときにうまく設計するべきだったと反省しました。

このことを経験し、サージェント教授がなぜ「解答」を学生に与えず、試験終了のその時まで試行錯誤させるスタイルをとっていたのかが理解できました。確かに、学生に答えをすぐ教えてしまうやり方は学生側にとっても、教える側にとっても楽ではあると思います。しかし、学生の学習過程を真摯に考えるならば、学生側が何を理解していないのかを見抜き、適切なヒントを与え、自分たちで結論を得ようとさせることこそが彼らの理解にとって望ましいのだと気づきました。実際、教授は宿題や抜き打ちテストの学生の解答の全てに目を通していました。そして、この学年は学習するインセンティブをうまく設計しなければならないと気づいたのでしょう。

サージェント教授は長年の教師としての経験から学習過程というものがどうあるべきなのかを知っていたのだと思います。そして、私と頻繁にミーティングをし、抜き打ちテストや宿題の公開禁止の意図やそこに至る過程を伝えることによって、授業というものをどうデザインしていくべきなのかをTAである私に教授していたのでしょう。サージェント教授は受講している学生だけでなくTAである私にとっても良い教師 (Good Teacher) でありました。

最後に

この学期はTAの仕事もあり、自分自身の専門科目の授業に対する取り組みが学期前に予想していたほど十分ではありませんでした。次の学期は授業以外に仕事がないので、自分の勉強と研究に専念ができます。このような素晴らしい環境が享受できるのもひとえに御財団からのサポートがあったものだと存じ上げます。誠にありがとうございます。これからも何卒よろしくお願い致します。